

## 小児の新型コロナウイルス感染症の特徴とは？

新型コロナウイルス感染症が蔓延しています。保護者の皆様におかれましては、子どもは大丈夫なのか心配されているのではないのでしょうか。小児の新型コロナには次のような特徴があるようです。

- ①**感染者数が少ない**：中国と米国の報告では、18歳未満の感染者数はそれぞれ全体の2.4%、1.7%と少なくなっています。その原因として、小児では無症状か軽症のことが多いため、検査に至っていないケースが多いのではないかと考えられています。
- ②**成人に比べて症状が軽い**：主な症状は発熱と咳です。鼻汁や鼻閉などの上気道症状は少なく、成人に比べて軽い症状で終わることが多いようです。
- ③**1歳未満では重症になることがある**：1歳未満では感染すると10人に1人が重症化しています。乳児は肺の機能が未熟なため呼吸状態が悪化しやすいことと、症状をあまり訴えないので周りが気づきにくいために対応が遅れることが原因のようです。
- ④**ほとんどが家族内感染**：小児では同居する大人からの感染が8~9割を占めています。特に乳幼児のいる家庭では、大人が帰宅後の手洗いなどを励行して家庭にウイルスをもちこまないようにすること、健康管理を心がけることが重要です。



### <子どもの病気 Q&A ②>

Q. 解熱剤を使ったのですが、熱が下がりません。どうしたらいいですか？

A. クーリングして様子を見ましょう。病気やタイミングによっては解熱剤を使用しても下がらないこともあります。高熱でも、機嫌がよくて元気そうならば使う必要はありません。38.5℃以上で機嫌が悪くて眠れないときや水分がとれていないときに使ってください。1度使ったら、次に使うまでに6~8時間以上はあけましょう。

#### ※クーリングの方法

嫌がらないようなら、氷枕や保冷剤などで、首筋・脇・股を冷やしましょう。



### 4月の感染症情報

インフルエンザの発生はほぼ皆無でした。一部の保育所でヒトメタニューモウイルス感染症の発生がありました。感染症そのものの発生が非常に少ない印象でした。

### ~親子で遊ぼう~

#### ~②たかいたかい~

「たかいたかい」は、赤ちゃんが喜ぶだけでなく、バランス感覚や視点の切りかえを養います。いつもとは違った景色が見え、わくわくするでしょう。



子どもの目を見て、声をかけながら遊ぶのがポイントです。

※ 揺さぶり過ぎは、赤ちゃんの負担になります。首がしっかり座ってから、してあげてください。

### 4月のご利用状況

4月の利用延べ人数は54名、一日平均利用人数は2.5人でした。年齢別では、1歳児が32人(59%)で最も多く、次いで3歳児の7名(13%)、2歳児の6名(11%)の順でした。疾患としては、ほとんどが急性上気道炎でした。それ以外には、感染性胃腸炎とヒトメタニューモウイルス感染症による入室がありました。非常事態宣言により休校、外出自粛措置がとられたことで、新型コロナウイルスの発生だけでなく、それ以外の感染症の発生も抑えられたようです。

病児保育でお預かりするお子様については、家族歴や流行地への滞在歴の聴取、他の病原菌の迅速検査を行うことで極力コロナウイルスの紛れ込みを避けるようにしています。今後、今治地区の新型コロナウイルスの発生があれば、さらなる入室制限をさせていただくことになるかもしれません。